

稲作情報

No.8 「出穂予想～病害虫対策」

JAえちご中越 さんとう営農センター
TEL (0258) 41-2887

令和6年 6月21日

農作業中の「事故や熱中症」には、十分注意してネ!



速報

コシヒカリ生育状況(6月20日 生育調査:18地点平均値)

6月第2半旬以降、平年に比べてかなり気温が高く、日照も多い気象傾向が続いたことから6/20現在のコシヒカリの生育は平年に比べて茎数が多く、葉齢の進みも早まっています。幼穂形成期・出穂期は、成熟期の早晩を問わず平年より「3日程度早まる」見込みです。

- ・草丈：指標値比 117%「長い」
- ・茎数：指標値比 114%「多い」ほ場差：大
- ・葉数：指標値差 +1.0 葉「早い」
- ・葉色：指標値差 +1.2「やや濃い」

なお、ほ場ごとの茎数・葉色の生育較差が大きいため、ほ場ごとの「生育診断」にもとづき適期に穂肥を施用しましょう!!

地区	田植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
寺泊	5/7	42.2	409	9.3	40.2
和島	5/8	42.8	483	9.7	40.1
出雲崎	5/5	43.4	383	9.0	38.6
与板	5/11	45.7	547	9.2	44.2
三島	5/5	45.8	428	8.4	40.7
越路	5/12	43.2	496	9.3	40.1
平均	5/8	43.4	457	9.2	40.2
6/20 指標値	5/10	37.0	400	8.2	39.0

速報 その②

早生品種の出穂期は、平年より「3日早まる」見込みです。特に、早生・多収性品種の収量(粍数)を確保するには、1回目の穂肥施用時期が特に重要になります。下表の「穂肥時期・施肥量の目安」を参考に、遅れずに穂肥施用してください。

1. 出穂期及び穂肥時期(予想)

6/20現在の予想値です。
早生品種の穂肥は、遅れずに施肥してネ!!



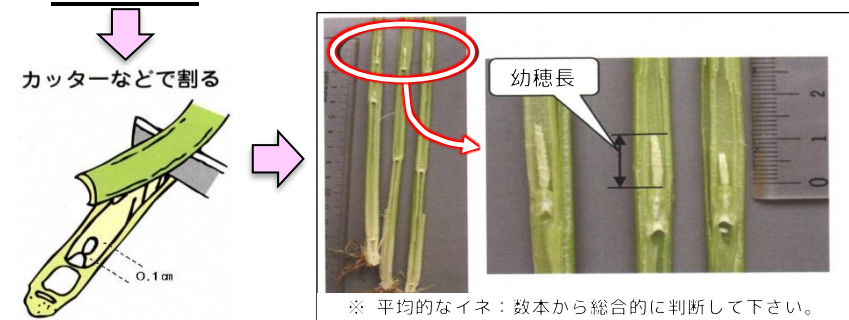
(1) 幼穂形成期及び出穂期予想と穂肥時期・施肥量の目安 (令和6年6月20日現在)

品種名	幼穂形成期	出穂期	10a窒素成分 (2回の合計)	施用時期の目安 * ()は出穂前日数	
				1回目	2回目
コシヒカリ	7月9日	8月1日	1~3 kg	7/14~17 (18~15)	7/22 (10)
ゆきん子舞	6月28日	7月21日	5~6 kg	6/26~28 (25~23)	7/7 (14)
こしいぶき	6月28日	7月21日	2~3 kg	6/28 (23)	7/7 (14)
ゆきの精	6月28日	7月21日	2~3 kg	6/26~7/1 (25~20)	7/7~11 (14~10)
にじのきらめき	7月11日	8月3日	2~5 kg	7/4~7/9 (30~25)	7/20 (14)
ゆきみらい	6月23日	7月16日	5~6 kg	6/23 (23)	7/3 (13)
わたぼうし	6月27日	7月20日	2~3 kg	6/28~30 (22~20)	7/8~10 (12~10)
こがねもち	7月4日	7月27日	1~3 kg	7/9~12 (18~15)	7/17 (10)
五百万石	6月25日	7月18日	1~2 kg	6/28 (20)	7/6 (12)
たかね錦	6月29日	7月22日	1~2 kg	7/2~7/4 (20~18)	7/8~12 (14~10)

※ 早生品種は5月1日~5日、中生品種は5月10日~15日移植を想定して予想しています。必ず、ほ場ごとに生育診断 = 「幼穂を確認」してから「穂肥時期・施肥量」を判断して下さい。

(2) 幼穂長と出穂前日数の目安

出穂前日数 (日)	幼穂長 (cm)
24	0.1
20	0.2
18	0.5~1.0
12	4.0~6.0



※ 平均的なイネ：数本から総合的に判断して下さい。

「注意! 警戒!!」 ↓ いもち病の感染好適条件が発現しそうです!!

(3) 1回目穂肥施用時の生育量の目安 (主要品種)

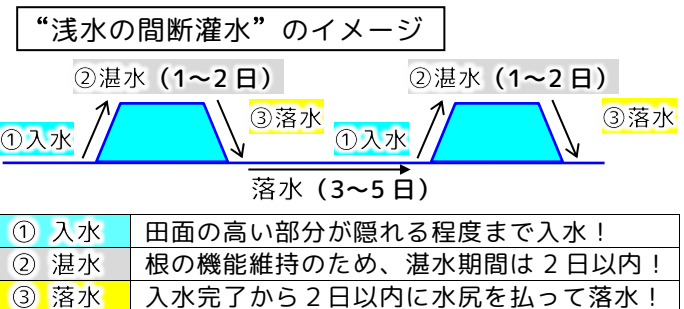
項目	ゆきん子舞	こしいぶき	ゆきの精	にじのきらめき	わたぼうし	ゆきみらい	五百万石	たかね錦
草丈 (cm)	65	58	65	65	65	55	60	65
茎数 (本/株)	30	28	25	28	24	25	22	22
葉数 (葉)	10.5	10.7	11.0	10.5	10.5	9.7	11.0	11.0
葉色 (SPAD)	37~39	35~37	35	40~43	38	41	38	39
病害虫	葉もち・紋枯病等が発生していない							

※ 窒素の多用(過剰施肥)は病害の発生を助長します。→ 必ず病害の発生状況を確認して下さい。

2. SDGs な水管理

「小ヒビ中干し」→「浅水の間断灌水」→「飽水管理」を徹底!!

田面に「小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度」になったら中干しを終了し、「浅水の間断灌水」から徐々に「飽水管理」に移行しましょう。中干しは遅くとも生殖生長への転換期(出穂の1ヵ月前)までに終了します。なお、**長期間にわたるタメ水は厳禁です。**(根腐れを助長→2日以内に落水!!) また、中干し開始が遅れた圃場や中干し効果が不十分なほ場を中心に、茎数過剰や葉色の濃いほ場があります。過剰な分けつは、倒伏を助長するとともに登熟がバラつき品質低下の要因となります。該当するほ場では、中干しを延長・継続して「根の健全化と稲体の活力強化」に努めましょう!!



「地耐力の確保が不十分」で中干し期間を延長(長く)したい場合は… 「浅水の間断灌水(①入水→③落水を繰り返すこと)」によって、大ヒビを入れないように水管理しましょう!!

3. 病害虫対策

⚠ 「葉いもち病」の発生に注意・警戒してください!! ⚠

(1) 葉いもち病 … 6/23「梅雨入り!」→ いもち病の感染好適条件が発現しそうです!!

いもち病は、感染(長時間の濡れ=感染好適条件の発現)から約1週間後に病斑を確認することができます。発生しやすい地域(中山間地・沢地等)や品種、前年に多発生したほ場内をこまめに観察して、葉いもちの発生を確認した場合には早急に薬剤防除を実施して下さい。なお、今後の天候次第(1ヵ月予報:気温が高く、平年同様にくもりや雨の日が多い)では発生・被害が拡大する恐れがありますので、注意して下さい。

対象病害	薬剤名	使用量・希釈倍数	摘要
いもち病	カスミン液剤	1,000倍	穂揃い期まで
	ゴウケツ粒剤【*】	3~4kg/10a	出穂5日前まで
	ブラシフロアブル・粉剤【*】	700g/10a (1,000倍) 粉剤: 3~4kg/10a	収穫7日前まで ごま葉枯病等

※ 【*】のゴウケツ剤・ブラシ剤は、特別栽培米に使用できません!! ご注意ください。

(2) 斑点米カメムシ … 本田・農道畦畔における除草管理を徹底!!

気温の上昇とともに、カメムシ類の発生密度(確認地点率)が高まっています。→ 本田内(ヒエ・ホタルイ)および農道・畦畔(イネ科雑草)の雑草管理(草刈り・除草剤散布)を徹底することにより、斑点米カメムシ類の発生密度を抑制しましょう!

~~営農情報のお問い合わせは、お気軽に最寄りの営農センターへ~~
次回稲作情報: 7月初旬「生育状況、穂肥対応、病害虫対策」(予定)

